



九州工業大学 秋季研修

令和元年9月30日(月)

九州工業大学 工学部の紹介



今回の研修で、九州工業大学の学部や学科、研究室について、実際に見学したり話を聞いたりして、どんな内容を学び、どのような研究をしているかについて、詳しく知ることができました。また、高校で学ぶ物理や数学が役に立つことも知り、もっと勉強を頑張ろうと思いました。

深町 萌愛(古賀北中出身)

模擬授業「交通体系実現・地域の街づくりを考える」

工学研究院 建設社会工学研究系 交通工学研究室 准教授 寺町 賢一 先生

模擬授業では、工学研究室の先生と大学院生の方々と一緒に、渋滞や騒音問題といった交通に関する問題の解決方法や、道路や橋の建築の際の設計や保守点検について、この研究室で行われている研究について説明していただきました。その後、高校生5人1組のグループに分かれて、香住丘高校の直ぐ近くにある照葉の人工島(アイランドシティ)の渋滞の解消方法について、ワークショップを行い、最後にグループごとに発表しました。とても有意義な時間を過ごすことができました。

近藤 怜史(篠栗北中出身)

建築社会工学科の模擬授業では、1つのグループに1名の大学院生の方が、TA(ティーチングアシスタント)としてついてくださいました。与えられた課題について一緒に意見を出し合う中で、大学での研究の仕方を少しだけ身近に感じることができました。今回の課題は、学校の近くのアイランドシティがテーマで、自分の馴染みのある都市について具体的に考えるのはとても楽しかったです。大学での研究が、高校での普段の勉強の延長線上にあることを学び、日頃の学習をもっと頑張ろうと思いました。

栗田 実桜(春日中出身)

模擬授業では、街づくりの一部を体験しました。いろいろなことを考えながら、具体的にどうすべきか?を提案していかなければならず、とても難しかったです。特に考えさせられたのは、社会にはいろいろな世代の人がいて、様々な生活をしているので、できるだけ多くの人たちが便利だと思えるような街を目指していないといけなかったことです。また、大学院生と一緒に深いところまで想像しながら考えることはとてもよい経験になりました。

牛島 到也(吉塚中出身)

講義「九工大の学生たちによる深宇宙の探査」

—深宇宙探査機「しんえん2」と地球低軌道環境観測衛星「てんこう」—

工学研究院 先端機能システム工学研究系 教授 奥山 圭一 先生

人工衛星の開発に実際に携わっている方の話を直接聞くことができ、詳しく人工衛星について学ぶことができました。私が一番印象に残ったことは、「しんえん」という人工衛星の形が六角形の面の立体である理由が、人工衛星の表面積を大きくして、衛星の向きが変わっても太陽パネルに当たる光の量が大きく変化しないため、ということです。また、塗装も熱計算をして白色と青色にしたと知り、衛星のひとつひとつに深い意味があって、たくさん工夫されているのだと分かりました。私は、将来、「もの」の開発を試みたいと考えているので、とても参考になりました。先生が講義の中で「失敗をしても、何度でも挑戦して乗り越えれば大丈夫だ!」とおっしゃっていました。私も失敗を恐れずにどんどん挑戦して、乗り越えていこうと思いました。

清水 優那(古賀北中出身)

